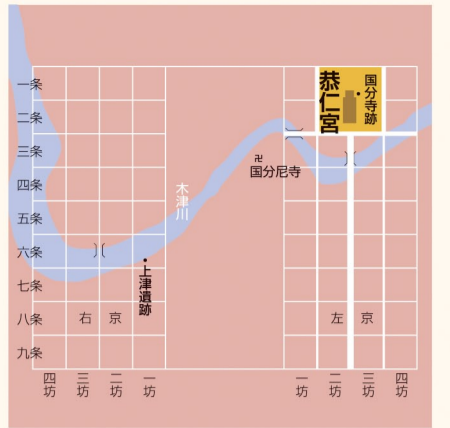


恭仁京

謎につつまれた幻の都
740~743

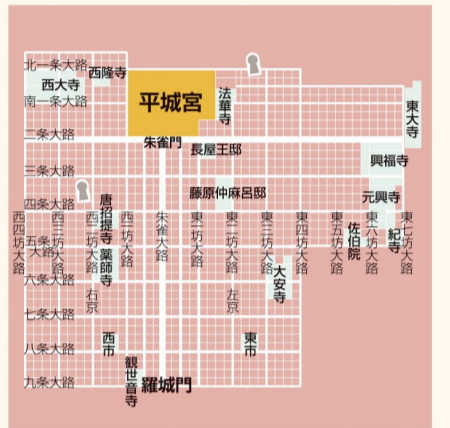


天平12年(740)、遷都を決意した聖武天皇は平城京を離れ、各地を転々とした後、現在の木津川市に都を造営することを宣言しました。天平16年に難波宮に都が遷されるまでのわずか5年にも満たない都ですが、この間に国分寺・国分尼寺建立の詔、大仏建立の詔、聖武天皇の私法法の公布など、次々と重要な政策が出されました。宮殿跡には、山城国分寺が建立され、現在は大極殿(金堂)礎石と七重塔礎石が残され、昭和32年(1957)国の史跡に指定されています。晩夏から秋にかけては、彼岸花やコスモスが宮跡を彩ります。

- 2.9km 廣瀬神社
- 11.4km 奈良県第二浄化センター
- 2.8km 橿原運動公園
- 1.4km かしはら万葉ホール
- 5.4km 飛鳥京 (石舞台)
- 藤原京

平城京

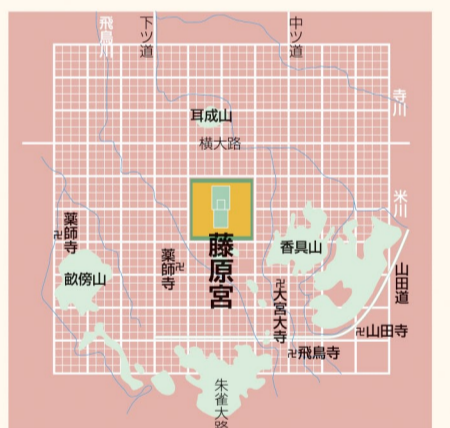
シルクロードの終着点となった国際都市
710~740



和銅3年(710)、元明天皇が藤原京から遷都した都は、唐の都「長安」を模して造営されました。都は、東西4.3km、南北4.8kmの南北に長い長方形で、中央の朱雀大路を軸に西側に右京、東側に左京、その更に東に外京(現在の奈良町周辺)からなり、シルクロードの終着点として大陸から多くの文物が伝わり国際的都市として賑わいました。平城宮跡をはじめ、多くの寺社が平成10年(1998)古都奈良の文化財として世界遺産に登録。朱雀門や大極殿が復原されています。

藤原京

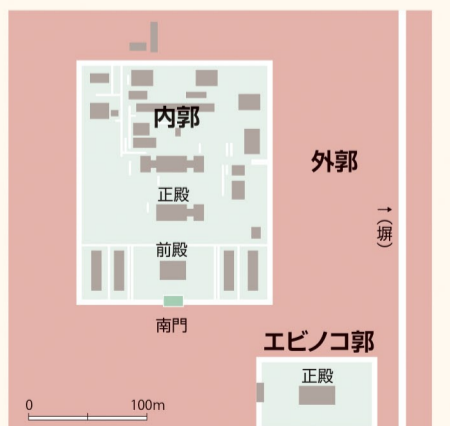
日本で最初の本格的な都
694~710



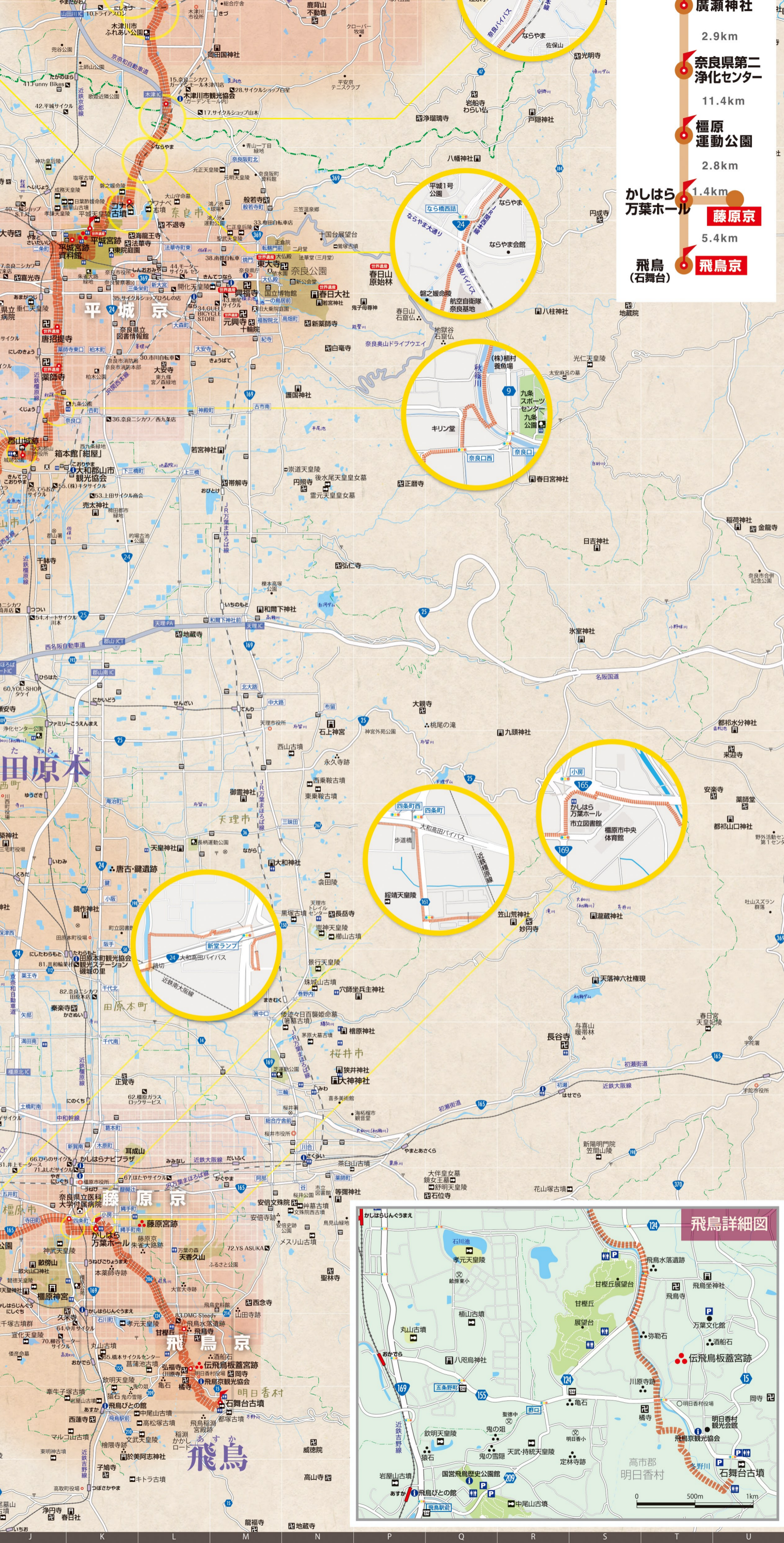
持統8年(694年)、持統天皇は、飛鳥浄御原宮から西北部に、日本史上最初で最大の都城を造営しました。条坊制によって造られた本格的な中国風都城で、持統文武、元明の3天皇が居住しました。藤原京跡は、藤原宮跡の特別史跡として指定されています。周辺に広がる藤原京跡は、発掘調査が続けられ、宮跡は、世界遺産の暫定リスト「飛鳥、藤原の宮都とその関連遺産群」の構成資産のひとつとなっています。

飛鳥京

条坊制が出る前の都のはじまり
643~694



飛鳥京は、古代、飛鳥地方に置かれた都の総称。世界遺産の暫定リスト「飛鳥・藤原の宮都とその関連遺産群」の構成資産のひとつです。伝飛鳥板蓋宮跡は発掘調査により、飛鳥岡本宮、飛鳥浄御原宮の四つの宮があったことがほぼ確実となっており、飛鳥板蓋宮跡の時代は、ここで、中大兄皇子・中臣鎌足らが蘇我入鹿を倒し、大化改新を断行したといわれています。また、飛鳥浄御原宮の時代は、天武天皇の二代が、律令国家体制の礎を築く事業を進めたとされています。現在は当時の遺構が、部復原整備されています。



飛鳥詳細図
0 100m
0 500m 1km